

共生・協働の地域社会づくり

鹿児島県内で元気に共生・協働に取り組む団体を紹介します。

指宿市

NPO法人

《問い合わせ》09993(22)2880

◎ ライフケアネットワーク

心の垣根をなくして

「声がかかれば、何でもやりますよ」。

NPO法人ライフケアネットワーク代表の

あまのたくみ

天野巧さんは言う。建設業を営む天野さ

んが高齢者や障害者の支援にかかわるよ

うになったのは、介護保険制度が始まり、

介護向けの住宅改修の相談を受けるよう

になったのがきっかけ。「高齢者、障害者の

身近にあるさまざまなバリアを取り除き、

より快適に暮らせるように」とさまざまな

支援に取り組んでいる。

その一つが、平成17年に県から委託を受

けて制作した「やさしい鹿児島スイスイな

び」。利用者が行きたい場所に行けるかとど

▼「やさしいかごしまスイスイなび」の調査では、少しの段差も寸法を測り、情報として掲載した。



▼県ホームページで
ご覧いただけます。



▲フラワーパークかごしまでの電動カートの導入実験の様子。

うか自分で判断し、事前準備をする時の手助けとなる情報を提供している。県下のいろいろな施設の駐車場や入り口・スロープ・トイレの寸法などを掲載するため、各地の福祉ボランティアと障害者がチームを組んで一つひとつ施設を調査して回り、データベースを完成させた。利用者からは「車イスが通れるかどうか事前に確認できるので安心」「2階のトイレがすいているという情報が役に立った」など好評だったという。

昨年は、県やトヨタ車体研究所との協働で、フラワーパークかごしまや平川動物公園などの公共施設や観光地に電動カートを設置し利用してもらおう試みを行った。足の弱いお年寄りや小さな子ども連れの母親に「カートがあるとかなり楽。また来てみようという気になります」と支持され

た。県内には広大な敷地の観光施設が多い。「お年寄りが子どもたちと一緒に気軽に外出できれば、会話の機会も増えて、昔からの知恵の伝達もできるはず」と実現に向けて天野さんの期待は膨らむ。子どもたちに、バリアフリーを理解してもらいたいという思いは、障害者や高齢者の行動を助ける自助具を開発するという、中学校と連携した総合学習の企画にも現れている。この学習で子どもたちは、自分のおじいちゃん、おばあちゃんたちが「困っていること」を取材して、それを解決する自助具「片手用雑巾しぼり機」や「頭にかぶる傘」などを作成した。「子どもたちがこうした体験を通して、いろいろな人と垣根をつくらずに接したり、困っている時は助けたりすることを学んでほしいですね」と天野さんは語る。「声がかかれば、障害のある方の旅行ガイドをしたり、講演会をしたり、グランドゴルフ大会をしたり、いろいろなことをしていますが、障害者・高齢者の支援ということで変に気負わず、あらゆる人たちが社会参画できるようにしようという気持ちでやっています。それがバリアフリーということだと思えますよ」。自然体でお互いが助け合う地域を目指して、日々奮闘中だ。

た。県内には広大な敷地の観光施設が多い。「お年寄りが子どもたちと一緒に気軽に外出できれば、会話の機会も増えて、昔からの知恵の伝達もできるはず」と実現に向けて天野さんの期待は膨らむ。子どもたちに、バリアフリーを理解してもらいたいという思いは、障害者や高齢者の行動を助ける自助具を開発するという、中学校と連携した総合学習の企画にも現れている。この学習で子どもたちは、自分のおじいちゃん、おばあちゃんたちが「困っていること」を取材して、それを解決する自助具「片手用雑巾しぼり機」や「頭にかぶる傘」などを作成した。「子どもたちがこうした体験を通して、いろいろな人と垣根をつくらずに接したり、困っている時は助けたりすることを学んでほしいですね」と天野さんは語る。「声がかかれば、障害のある方の旅行ガイドをしたり、講演会をしたり、グランドゴルフ大会をしたり、いろいろなことをしていますが、障害者・高齢者の支援ということで変に気負わず、あらゆる人たちが社会参画できるようにしようという気持ちでやっています。それがバリアフリーということだと思えますよ」。自然体でお互いが助け合う地域を目指して、日々奮闘中だ。



▲西指宿中学校での総合学習の様子。傘を手に持たなくても被れば大丈夫。



代表 天野さん

4月10日に、障害者が働く場所となる「つけあげ店」もオープンしました。
<http://npo-lcn.main.jp>

共生・協働の地域社会づくりやNPO法人に関するお問い合わせ先

◎共生・協働推進室(県庁市町村課内) ☎099-286-2241

◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) ☎099-221-6605

関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。

▼干潟は海環境浄化に欠かせない生物の宝庫。



アサリやゴカイなど底生生物の棲む干潟で有名な重富海岸は、海環境浄化を担う生態系が息づく豊かな自然に恵まれている。海岸沿いのクロマツ林では、人々が爽やかな海風と心地よい波音の中、散策を楽しんでいる。

この一角にある「重富干潟小さな博物館」は、その名前どおりのささやかな建物だが、常駐のガイド付きで、錦江湾と干潟の興味深い展示や目前に広がる実際の干潟を利用して学ぶことができる環境にある。平成18年10月から一般公開され、稼働日数は

くすの木自然館

始良町

NPO法人

《問い合わせ》☎09695(67)6042

みんなのでつくった干潟の小さな博物館

浅いものの、口コミで訪れる人も多く、地域の新しいコミュニケーションスポットになっている。また、地域と行政、地元NPOが協力して造りあげた共生・協働のモデルとしても注目できるところだ。

施設づくりの中心となったのは、NPO法人くすの木自然館。理事長の立山芳輝たちやまよしてるさんに博物館についてお話いただいた。

「きっかけは、私たちが毎日ボランティアで行っていた海岸の松林の清掃を通して、周辺に住む方々とコミュニケーションが図れるようになり、次第に周辺住民の方々が清掃に参加されるようになったことからです。そこで地域のインフォメーションセンターや環境学習の拠点として、コミュニケーション機能を併せ持つ場所を造りたいと思いました。幸い、地域づくりの貢献になるということで、使用されていなかった町の『海の家』をお借りすることができました。

建物の内部は地元や一般公募のボランティアの方々にも協力してもらう形で、壁板の張り替えやペンキ塗りなどほとんどを手作業で行い、作業に参加された方に記念に描いていただいた桜島の画や手形は、建物入り口の壁のモニュメ

▼壁のモニュメントを作成する子どもたち。



▲「今日はこんなことがあったよ」。
毎日、夕方近くになると寄り合いの輪ができる。

理事長 立山さん

私たちの愛している故郷の自然を、どのようにして後世につないでいくか皆さんと一緒に取り組んでいきたい。
<http://www.kusunokishizenkan.com>

ントとして使うなど、共生・協働の効果が発揮された博物館ができました」。

地域周辺の方と良い関係を築き、人にも自然に対しても謙虚さを忘れず、常に対話し何を求められているかを考えながら活動していききたいという立山理事長の思いが強く反映されている。

「今では清掃の拠点でもあり、散歩途中の人々の休憩の場にもなっています。今後はカフェなどを整備し、広い地域から多くの方が訪れる交流や地域情報発信の拠点に育てていきたい」と次の構想をこやかに話す立山さんの思いが込められた「重富干潟小さな博物館」。今日も夕方近くになると地元のお年寄りなどが自然に集い、楽しい歓談の時を過ごしている。